

白馬村水道事業の現状と課題

1 施設の老朽化と耐震化

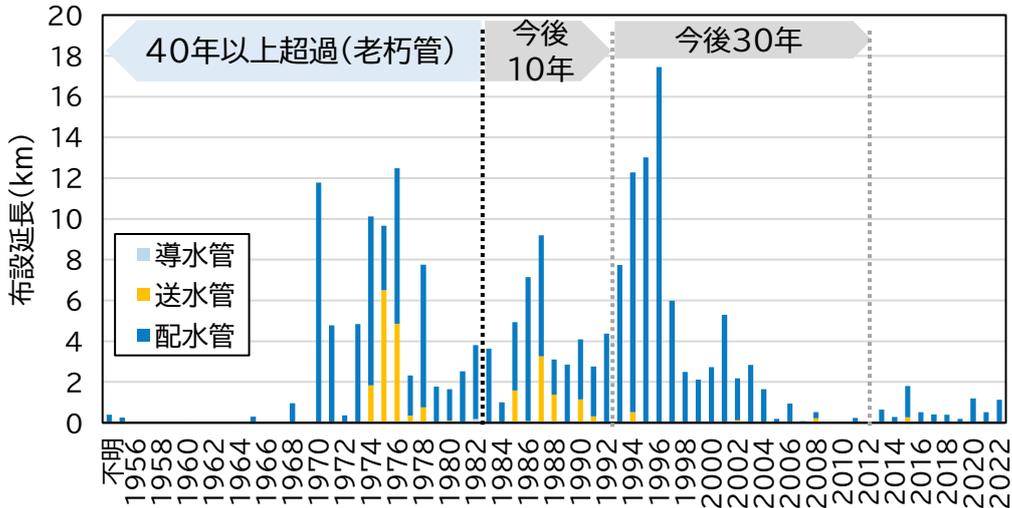
村内の水道管の総延長約203kmのうち、34%に相当する70kmが法定耐用年数である40年を超えて使用されています。

施設の耐震性に目を向けると、二股浄水場も40年以上が経過し、浄水場や配水池といった基幹施設の耐震診断において、「耐震性はない」という結果が出ています。

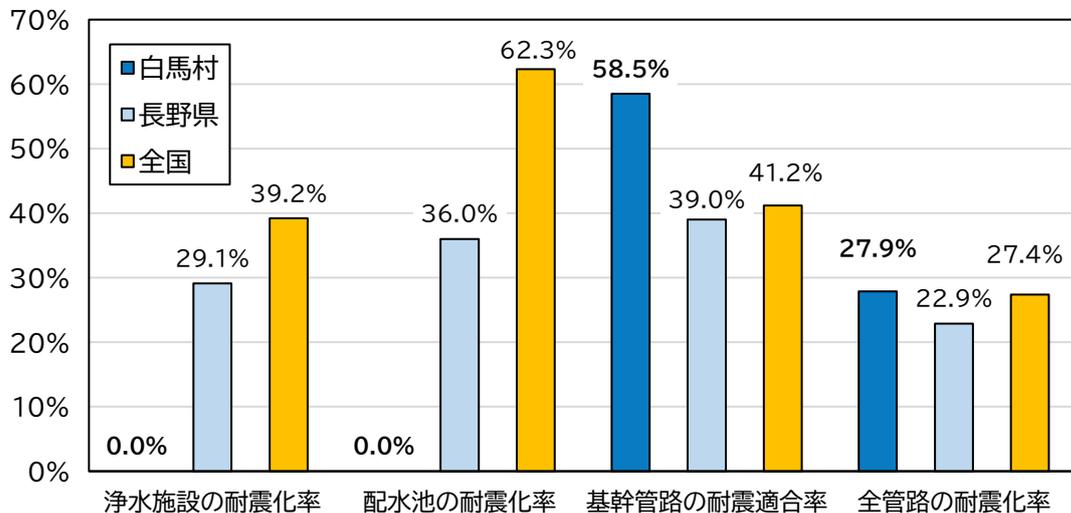
基幹管路の耐震適合率は全国及び長野県の平均を上回っているものの、全管路の耐震化率は3割以下に留まっている状況です。

白馬村水道事業では、古くなった管路を耐震管に順次更新することで管路の耐震化を進めています。計画的な管路更新により、耐震化に努めていく必要があります。

【図1 過去の管路整備延長と老朽化】



【図2 水道施設の耐震化の状況(令和3年度末時点)】





【配水管の漏水】



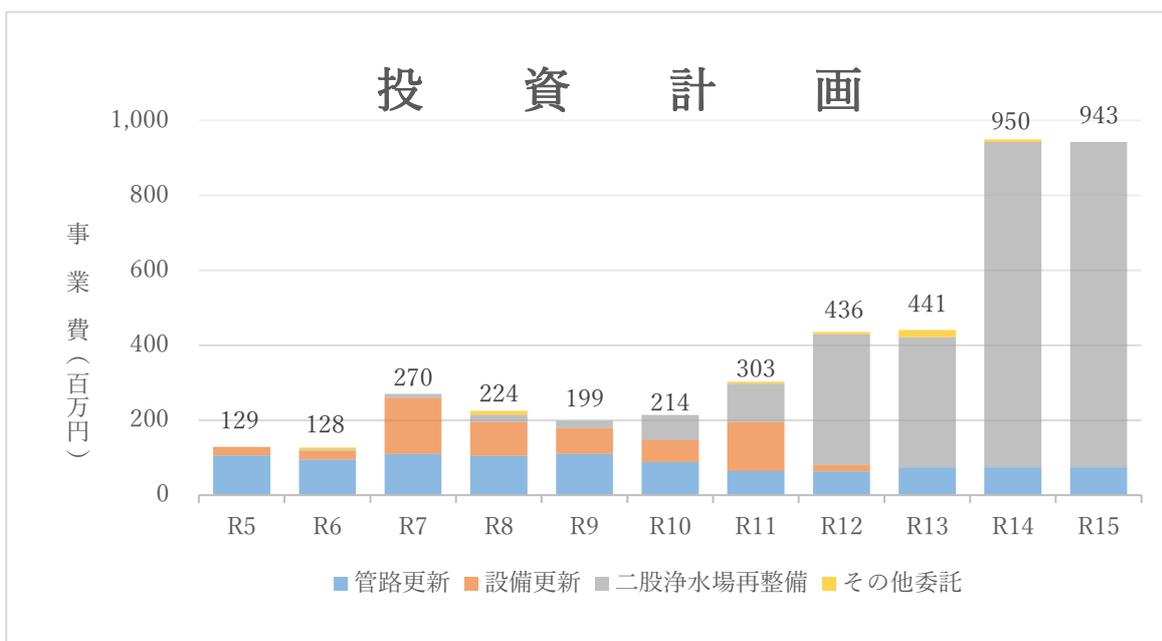
【配水管の漏水修理工事】

2 今後の投資計画と費用

白馬村の水道施設は、管路更新等の将来的投資を計画的に行い、施設の強靱化が必要な状況です。建設から40年以上経過し、耐震性がないと診断されている二股浄水場は、数年後に二股浄水場再整備事業として施設の更新を控えています。人口減少による配水需要の減少や管路更新による効率的な配水によって、施設のダウンサイジング等が可能なのか、判断が迫られています。

いずれにしても、施設の更新には多額の費用がかかります。一昨年度改定した「白馬村水道事業ビジョン」の投資計画を精査したところ、今後10年間で約40億円の事業費がかかる見通しで、このうち約26億円は二股浄水場再整備事業によるものです。

【図3 投資計画と事業費】



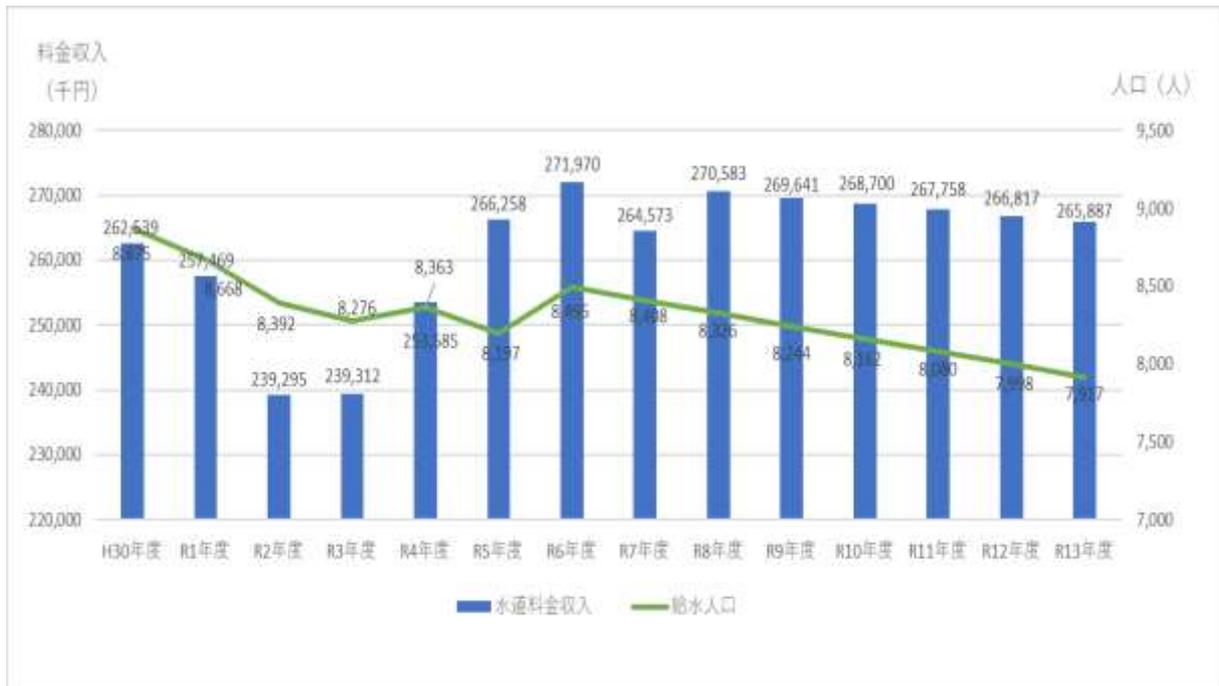
3 料金収入の減少

水道事業は、料金収入を財源に経営する独立採算制で運営しており、安全な水を 24 時間 365 日、お届けするのが使命です。そのため、老朽化対策や耐震化など、多額の施設更新費用がかかります。また近年は、燃料費高騰や施設・設備の修繕費の増加などで、経費も嵩む状況となっています。

一方、水道事業の収入の約 8 割を占める料金収入は、コロナ禍による減収から回復の兆しを見せていますが、将来的には人口減少等の影響で料金収入は減少していく見通しです。また、水道料金は、昭和59年に改定を行って以来、消費税の導入・改定による値上げを除き、改定されていません。

必要な資金の捻出は、経営努力だけでは困難な状況で、今後も持続可能で健全な経営を行うためには、新たな財源の確保が急務となっています。

【図 4 水道料金収入と給水人口の予測】



4 白馬村水道事業の課題

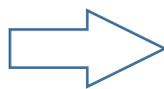
白馬村水道事業が直面している特に大きな問題点

施設管路の老朽化 → 故障・漏水 → 計画的な更新工事 → 更新財源の確保

人口減少 → 使用水量の減少 → 料金収入の減少 → 料金の見直し

対策を講じないと

収入面では、人口減少により料金収入は減少する見通しである一方、費用面では、多額の施設更新費用や修繕費用が増加の見通しであることから、対策を講じないと、収支のバランスが崩れ、近い将来に経営状態が悪化することとなります。



財政シミュレーションの結果

上記を勘案した財政シミュレーションによると、現行の料金水準のままでは、令和13年度に赤字に転落、令和15年度には現金資金が枯渇する見込みとなりました。

健全な財政状況を維持しつつ、老朽化する施設の更新を着実に実施するためには、経営基盤の強化がより一層求められており、適正な料金水準による給水収益の確保が必要不可欠な状況です。

【図5 純損益の推計結果】

